

## 「市長と一緒にティータイム」対話概要

団体名	ふたばっこ
実施日時	令和7年10月22日（水）午後6時～7時25分
実施場所	市役所第一応接室
出席者	ふたばっこ 5名 市 3名
テーマ	袖ヶ浦市の全こども対象のイベントについて

### 意見交換

ふたばっこ：私たちは保育園での交流を行っており、障がいのある子どもを保育園に連れて行くと、園児たちは「どうしてミルクを鼻から入れているの？」という質問をしてくれます。園児たちは説明をすると、すぐに受け入れてくれますが、大人には、障がいのことを聞くと傷つけてしまうという認識があるようで、障がい児と関わりを持つことをためらう原因となっています。インクルージョンを進めるためには、このような認識を変えることが必要だと考え「ふたばっこ」を立ち上げました。

設立目的は、「重症心身障害児医療的ケア児と地域住民との交流によって地域のインクルージョンを進める一助となる。」というもので、活動内容は、



重症心身障害児・医療的ケア児と地域住民との交流イベントの運営企画や、重症心身障害児・医療ケア児についての啓発活動です。幼少時に「当たり前」と感じていたことは、大人になってからも「当たり前」と感じますので、インクルーシブ教育は大切だと考えています。

ふたばっこ：横の実特別支援学校では、市内の小中学校と交流していますが、交流回数は年に1～2回程度と、「お友達」になるには少ないと感じています。お友達に障がい児がいれば、それが「普通」になります。

ふたばっこ：袖ヶ浦市の公立学校では、近隣市と比較すると、環境の整備など障がい児の受け入れがスムーズです。しかし、学校では、子ども一人が大人に囲まれて過ごしている状況があります。子どもたちが一緒に過ごし、一緒に学ぶことが大切です。

ふたばっこ：私は、学校に行き歌を歌うことがあります、子どもたちは、私を特別な目で見ることなく、自然に受け入れてくれます。偏見は、大人になる過程で作り出されると感じていますので、小さい頃から、障がいの有無に関わらず一緒にいることがとても大事だと思います。

ふたばっこ：インクルーシブ教育の課題としては、費用と時間がかかること、また、教育面では学校の先生の負担が大きいことが挙げられます。少しずつ理解してくれる人を増やし、無理なく受け入れてくれる地域ができると良いと思います。



ふたばっこ：子どもはみんな平等であるということを伝えたいと考え、子どもの権利条約を活動の前面に出すことにしました。子どもの権利条約では、子どもに生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利の4つの権利を保障しています。様々な子どもたちがいる中で、みんなが生きやすい世の中にするにはどうしたらしいのかを考え、この権利について知らせるため来年5月にイベントを開催することとしました。このイベントを通して、子どもの権利条約について考える機会を作りたいと思います。

ふたばっこ：市長は、障がいのある子どもたちや障がい者の方々に対してどのような思いがありますか。

市長：まず、「普通」とは何だろうと思います。私たちが考えているよりも、今の子どもたちの方がインクルーシブだと感じていますので、子どもたちにとっての「普通」とは何かということを見極めていく必要があります。一番大事なことは、子どもたちが自分の思いや達成感を実現でき、その子にとって最善のものが何かということだと思います。市内の小中学校では、支援が必要なお子さんとそうでないお子さんが一緒にいることが多くありますが、本人にとって一番いい場所はどこなのかということを主に考えています。これは学校だけで判断することは難しく、保護者の方の理解も必要です。子どもが自分らしくしっかり育つ場所を一番に考えています。

ふたばっこ：特別支援学校や特別支援学級、通級指導学級など、選択肢は様々ですが、本人にとってどれが最善なのか、親としても判断は難しいです。袖ヶ浦市では学区の小学校への入学を希望すれば受け入れてくれますので、選択肢



の一つに含められるのはありがたいです。

**ふたばっこ**：特別支援学校が一番インクルーシブな環境だと感じます。特別支援学校にはどのようなお子さんがいてもそれが「普通」で、障がいの有無に関わらずお互いに助け合っていますので、それが社会に広がれば良いと思います。

**ふたばっこ**：これまで、障がいのある方から話を聞くことはありましたか。

**市長**：市では、障がいのある方から様々なご相談を受けており、行政として対応しています。

**ふたばっこ**：ヘルパーを利用したいのですが、ヘルパーが不足していると感じます。

**市長**：商業、工業、農業など様々な分野で人が不足している状況となっており、ヘルパーに限らず、人材の確保が大きな課題となっています。

**ふたばっこ**：ヘルパーなど、生きることに関わる人材は増やしていく必要があると考えています。

**ふたばっこ**：ファミリーサポートセンターのように地域の方々が互いに支え合えることが一番いいと思います。困ったときに助けてくれるのは、ご近所の方など身近な存在です。

**市長**：障がいをお持ちでも、様々な分野で活躍されている方がいます。袖ヶ浦市出身の方が、東京2025デフリンピックのサッカー競技に出場することになり、先ほど表敬訪問に来てくれました。



**ふたばっこ**：子どもたちは、刺激を与えれば与えただけ伸びていきますので、環境を整えることが必要だと思います。

**ふたばっこ**：市長が応援してくださるのはとても嬉しく、ありがとうございます。開所し

てからずっとずっと温かく見守ってくださり感謝しています。

**市長：**皆さんのはいは、実現できると信じています。

本日はありがとうございました。